

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「四まいの絵を使って」 教材名「四まいの絵を使って」

2 単元の目標

文章の構成や、内容のまとまりを表す段落の役割を理解できる。書く内容の中心を明確にし、段落のまとまりや相互の関係に注意して構成を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や、内容のまとまりを表す段落の役割を理解している。 (〔知識及び技能〕(1)力)	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、段落のまとまりや相互の関係に注意して構成を考えている。(B(1)イ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

絵の出来事をどう並べるかで話の流れが変わることを確かめ、内容のまとまりを考えて書く。絵にない事実は自分の想像として示す。学習指導要領のB(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)力を活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教科書の絵は複製せず手元で確かめる。教師の独自の出来事カードでも、順を替えた時に必要になる接続や説明を比較し、内容のまとまりごとに段落を考える。おおむね満足できる状況は、書く内容の中心を明確にし、段落のまとまりや相互の関係に注意して構成を考えているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○絵に描かれた出来事確かめる。順序を替えて話の案を比べる。	学習状況を見て支援する。
	2 （本時）	○内容のまとまりと段落を考える。読み合ってつながらない箇所を直す。	知①・思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

書く内容の中心を明確にし、段落のまとまりや相互の関係に注意して構成を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの順にすると、出来事のつながりが伝わる話になりますか」 【めあて】絵の出来事をどう並べるかで話の流れが変わることを確かめ、内容のまとまりを考えて書く。 〈予想される児童の反応〉 ・ 始まりを変えると違う話になる。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どの順にすると、出来事のつながりが伝わる話になりますか」 教科書の絵は複製せず手元で確かめる。教師の独自の出来事カードでも、順を替えた時に必要になる接続や説明を比較し、内容のまとまりごとに段落を考える。 自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 始まりを変えると違う話になる。 ・ この絵の間に説明がないと分からない。 ・ 終わりで初めの出来事につながった。	教科書の絵は複製せず手元で確かめる。教師の独自の出来事カードでも、順を替えた時に必要になる接続や説明を比較し、内容のまとまりごとに段落を考える。 想定するつまずき：絵の説明を順に書くだけで話の中心がない、絵に描かれたことと想像を区別しない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 書く内容の中心を明確にし、段落のまとまりや相互の関係に注意して構成を考えている。(発言と学習記録) ◎知① 文章の構成や、内容のまとまりを表す段落の役割を理解している。(〔知識及び技能〕(1)力)(使った言葉・音読や表記の確認)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 終わりで初めの出来事につながった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「どの順にすると、出来事のつながりが伝わる話になりますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

